

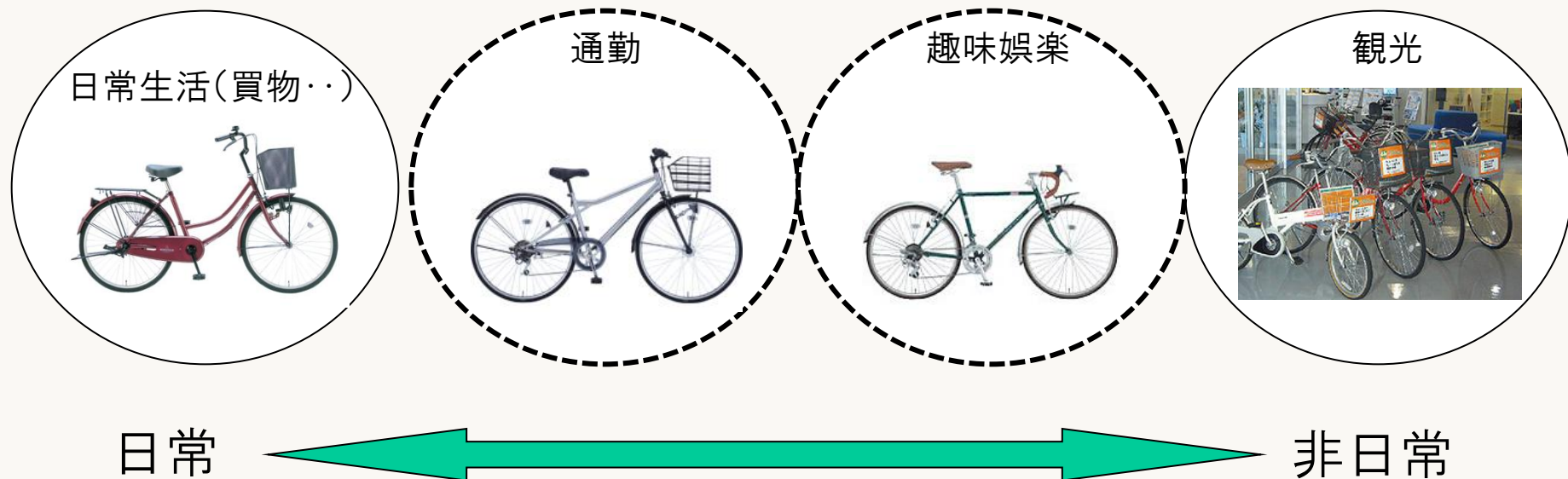
# 通勤における自転車交通のあり方

## ～自転車通勤促進策と従業員の意識～

(公財)豊田都市交通研究所  
研究員 樋口恵一

## 背景①: 自転車ブーム

- 健康意識の高まり、エコ、カッコいい、経費節約・・・
- 自転車関連のイベントが増加
- 観光ツール、交通まちづくり



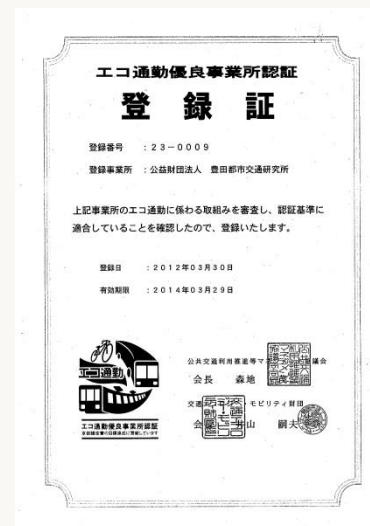
(画像: サギサカ、サカイサイクル、豊田まちづくり)

## 背景②:『エコ通勤』をご存知ですか？

- 『自動車に過度に依存しない通勤交通のあり方を考えて実践する』  
⇒ 地域社会・事業者・従業員へのエコ
- 豊田市:「豊田市エコ通勤をすすめる会」(平成20年)  
→ 平成8年から活動していたTDM研究会が母体
- 国土交通省:「エコ通勤優良事業所認証制度」(平成21年)



豊田市エコ通勤をすすめる会HP



優良事業所登録証

## 背景③: 研究所の取り組み(エコ通勤・自転車関連)

- 豊田市エコ通勤をすすめる会の事務局
- 端末交通での自転車利用に関する実証実験  
 平成21年度: コンビでケッタ  
 平成22年度: 駅から自転車

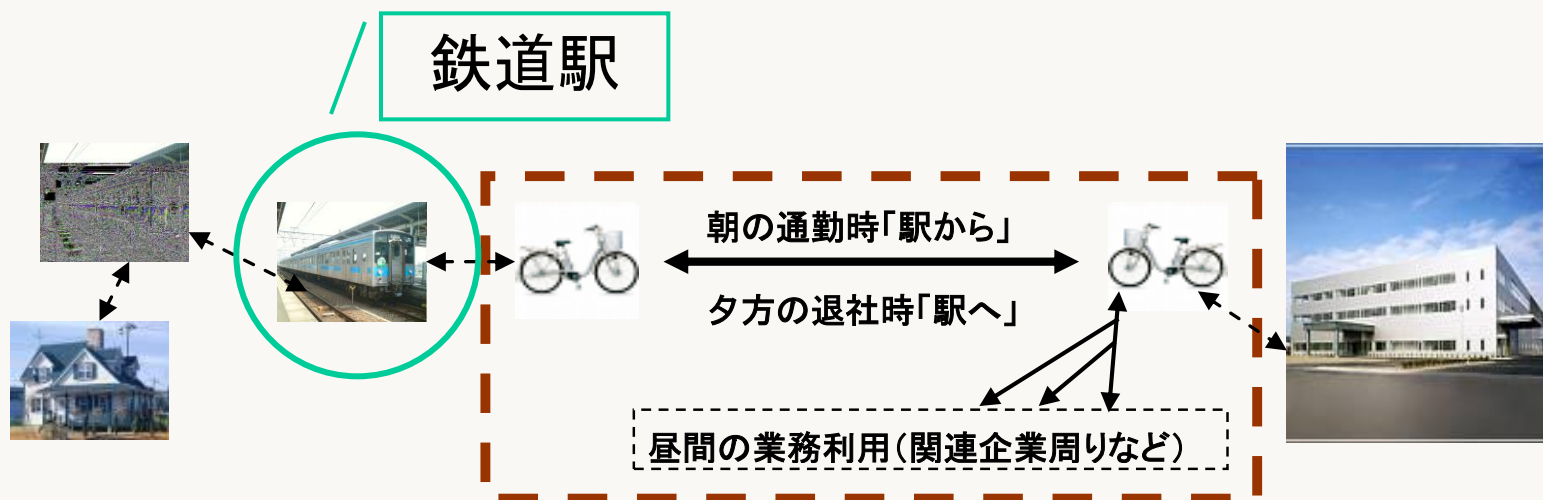


図: 駅から自転車イメージ

## 研究の位置づけと目的

### <研究の位置づけ>

- ・ 「エコ通勤」という枠組みのなかの自転車利用、促進

### 課題提起

- ・ 自転車利用状況
- ・ 事業所の制度上、自転車通勤を行うことが難しい可能性（自転車利用の許認可や手当での支給条件など）

### <研究の目的>

- ・ **自転車通勤の現状、自転車利用を促進するための方策や課題を明らかにする。**

### <研究の方法>

- ・ 豊田市内の事業所と従業員を対象としたアンケート調査を実施

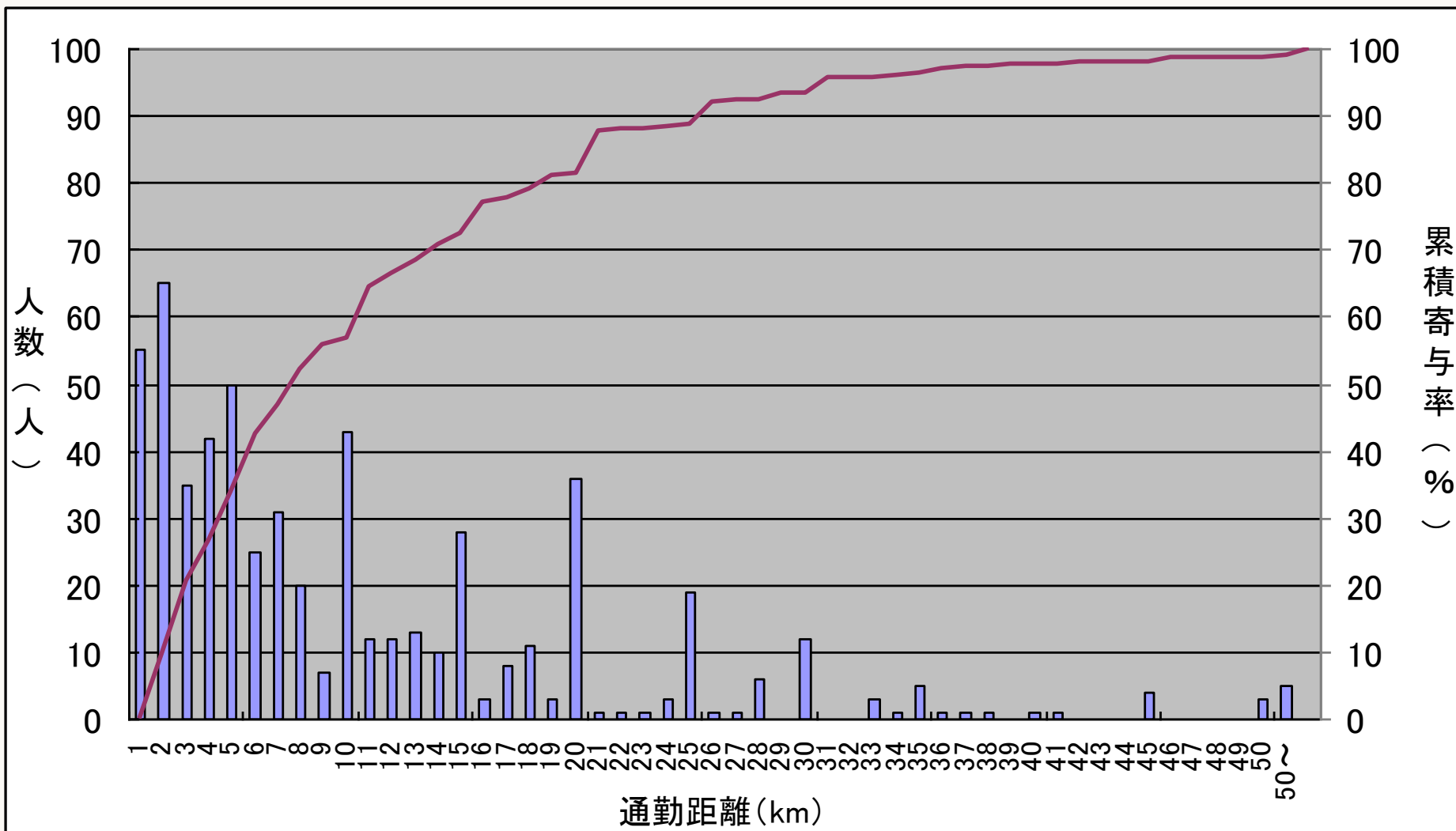
## アンケート調査の概要と回答者属性

調査日時	2012年1月23日(月)～2月8日(水)
対象事業所	「豊田市エコ通勤をすすめる会」会員事業所のうち9事業所
従業員調査票配布数	768票 (従業員数が100名を超える事業所には、100票を上限に依頼)
従業員調査票回収数	601票

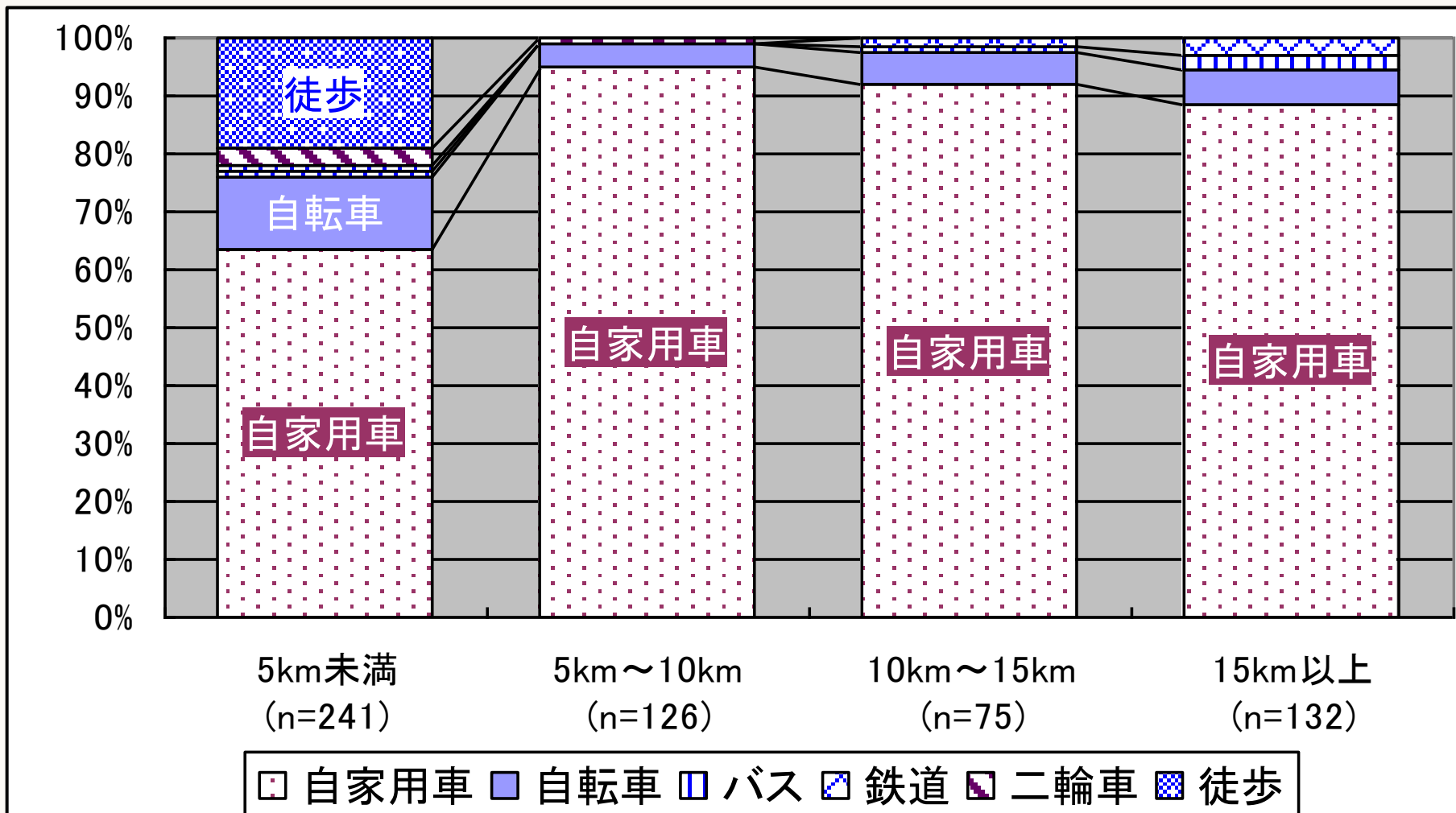
### <回答者属性>

- ・ 回答者の年齢構成は、30歳代・40歳代で50%を占めるが、各年代でほぼ均等に回収。
- ・ 性別の構成比は、男性が57%、女性が43%である。
- ・ 勤務形態は、日勤が72%で一番多い。

# アンケート回答者の通勤距離



# 通勤距離帯別の手段





## 自転車通勤の実態(自転車単独利用)

通勤距離	自転車通勤者数
～2km未満	18名
2km以上～5km未満	8名
5km以上～10km未満	5名
10km以上	2名
—	合計:33名 平均:3.5km

- ・60歳以上が38%
- ・男性(41%)、女性(59%)
- ・事務系、技術・営業系が4名ずつ、パート24名(75%)
- ・10km以上(13名)はパーク&ライドで自転車を利用
- ・若年層(～40歳)、フレックスタイム

## 自転車通勤を考えている人・自転車通勤の理由

通勤距離	「自転車通勤を考えている」人数
～2km未満	8名
2km以上～5km未満	17名
5km以上～10km未満	14名
10km以上	14名
—	合計:53名 平均:9.4km

- ・男性(66%)、女性(34%)
- ・事務系が55%(営業・技術系は28%)
- ・主に自家用車からの転換(徒歩は5名)

### ～自転車通勤を行っている・考えている理由～

**1位:健康**    **2位:通勤距離が近い**ため    **3位:費用節約**

### ～自転車通勤を行わない理由～

**1位:距離が遠い**    **2位:天候**    **3位:体力負荷**

## 自転車通勤を行う上での課題

- ・5項目の優先順位を調査 ⇒ 得点化(1位:5点~5位:1点)

改善項目	自転車通勤者		非自転車通勤	
	改善得点	順位	改善得点	順位
走行環境 (道路の拡幅や自転車専用レーンなどの整備)	4.3	1位	4.4	1位
通勤手当 (自転車通勤者への通勤手当の新設・拡充)	3.4	2位	3.0	2位
自転車運転講習 (運転方法やマナーの徹底)	2.2	5位	2.7	4位
施設整備 (勤務先に駐輪場やシャワー室を整備)	2.9	3位	3.0	2位
自転車配備 (自由に利用できる自転車の配備)	2.3	4位	2.0	5位

## 自転車通勤促進策① (国土交通省:エコ通勤ポータルサイト)

	内容	結果
名古屋市役所	職員に支給する自転車通勤手当を増額する一方、5km以内など短距離の自動車通勤手当を半額に改正	2000年に比べ、2003年には自転車通勤者が約50%増加し、マイカー通勤は約25%減少
ヤマハ発動機 (磐田市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・徒歩通勤手当(1000円)の新設</li> <li>・自転車通勤手当の増額</li> <li>・通勤バスの増便</li> <li>・電動二輪車のレンタル</li> <li>・「リターンライダースクール」の実施</li> <li>・電子メールによる「エコ通勤実態調査」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・68%が「エコ通勤に参加」と回答 (調査回答者7,351人)</li> <li>・「リターンライダースクール」などがエコマインドの醸成に貢献</li> </ul>
フジキン (東大阪市)	自動車通勤の自粛期間に応じた報奨金を支給(自動車通勤を1年自粛した場合月額3,000円、3ヶ月で月1,500円の報奨金を支給)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者670人中33人が制度を適用</li> <li>・通勤途上での交通事故が減少</li> </ul>

## 自転車通勤促進策②（国土交通省：エコ通勤ポータルサイト）

	内容	結果
シマノ (堺市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理人付き駐輪場300台分を新設</li> <li>・電動空気入れや自転車工具を配備</li> <li>・個人用ロッカー</li> <li>・男女別の更衣室・浴場を整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員の3割が自転車で通勤</li> <li>・週3回以上自転車通勤した人では、体重が平均で1.7kg、体脂肪は1.6%減少</li> </ul>
ウィルフォード社 (オーストラリア)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駐輪場・自転車整備施設の提供</li> <li>・自転車通勤者用シャワー施設の設置</li> <li>・事業所による「自転車プール」の設置</li> </ul>	<p>自転車利用者が約2倍（18%→35%）に増加する一方、自動車利用者は12ポイント減（34%→22%）</p>

- ・『費用面』、『設備面』でのサポート
- ・「アメとムチ」をパッケージで行うことが成功のポイント

## 自転車通勤促進策に関する意識調査

- 『費用面』、『設備面』、『その他(雨天時)』の枠組みで、8つの促進策を提案

分類	自転車通勤促進策
費用面	通勤手当の拡充・報奨金の支給
	電動アシスト付き自転車購入補助
	自転車保険加入補助
設備面	シャワー室の整備
	自転車通勤マップ
	レンタル自転車
その他(雨天時)	雨天時装備
	雨天時サポート

## 自転車通勤促進策に関する意識調査

### 《従業員調査》

- ・ 促進策が展開された場合の「自転車通勤のしやすさ」・「自転車通勤への意識(自転車通勤を考えるか否か)」

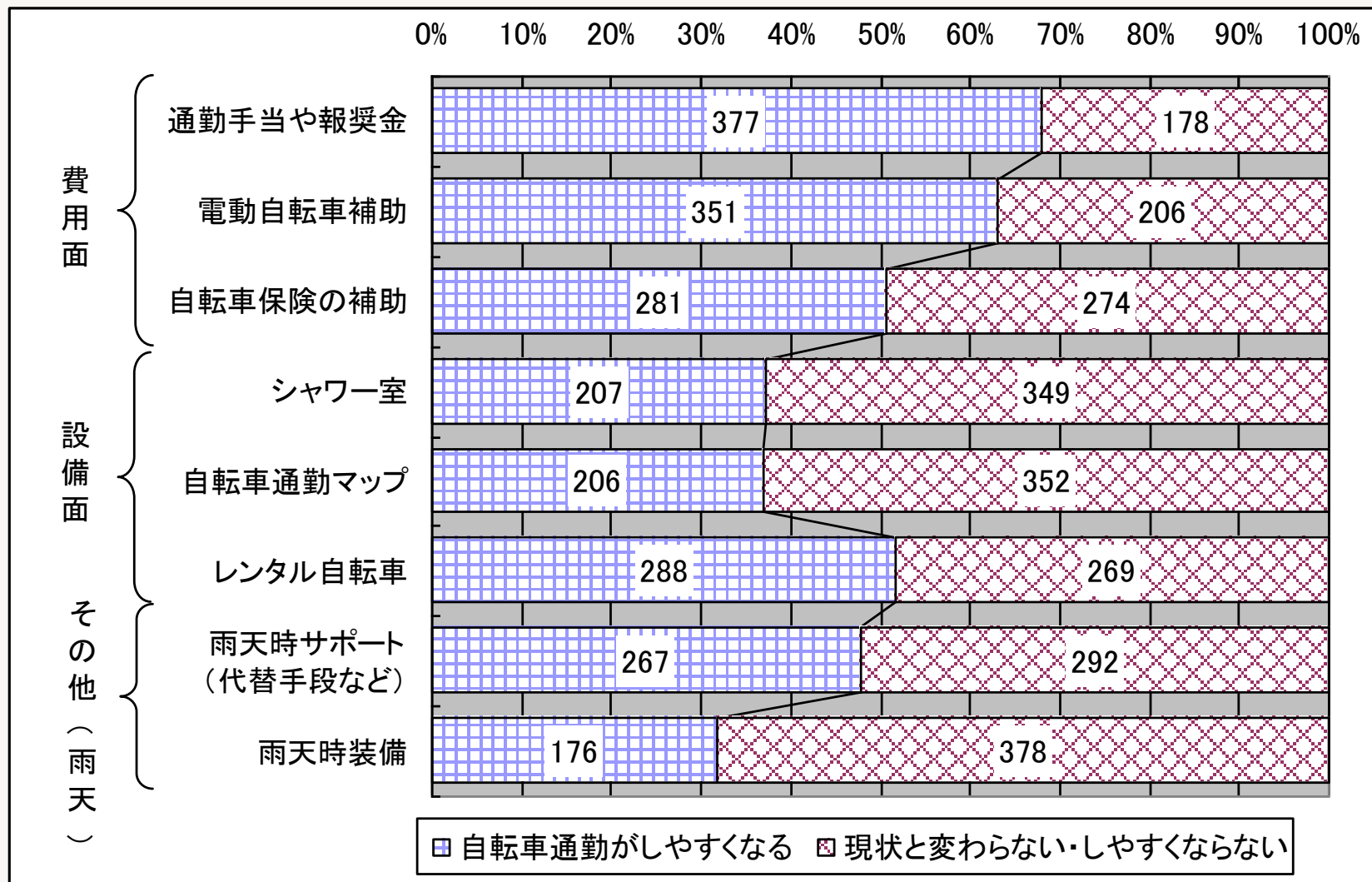
### 《事業所調査》

- ・ 促進策の受容性(実施中、検討中、今後検討する、検討しない)

### 【仮説(転換意識や受容性)】

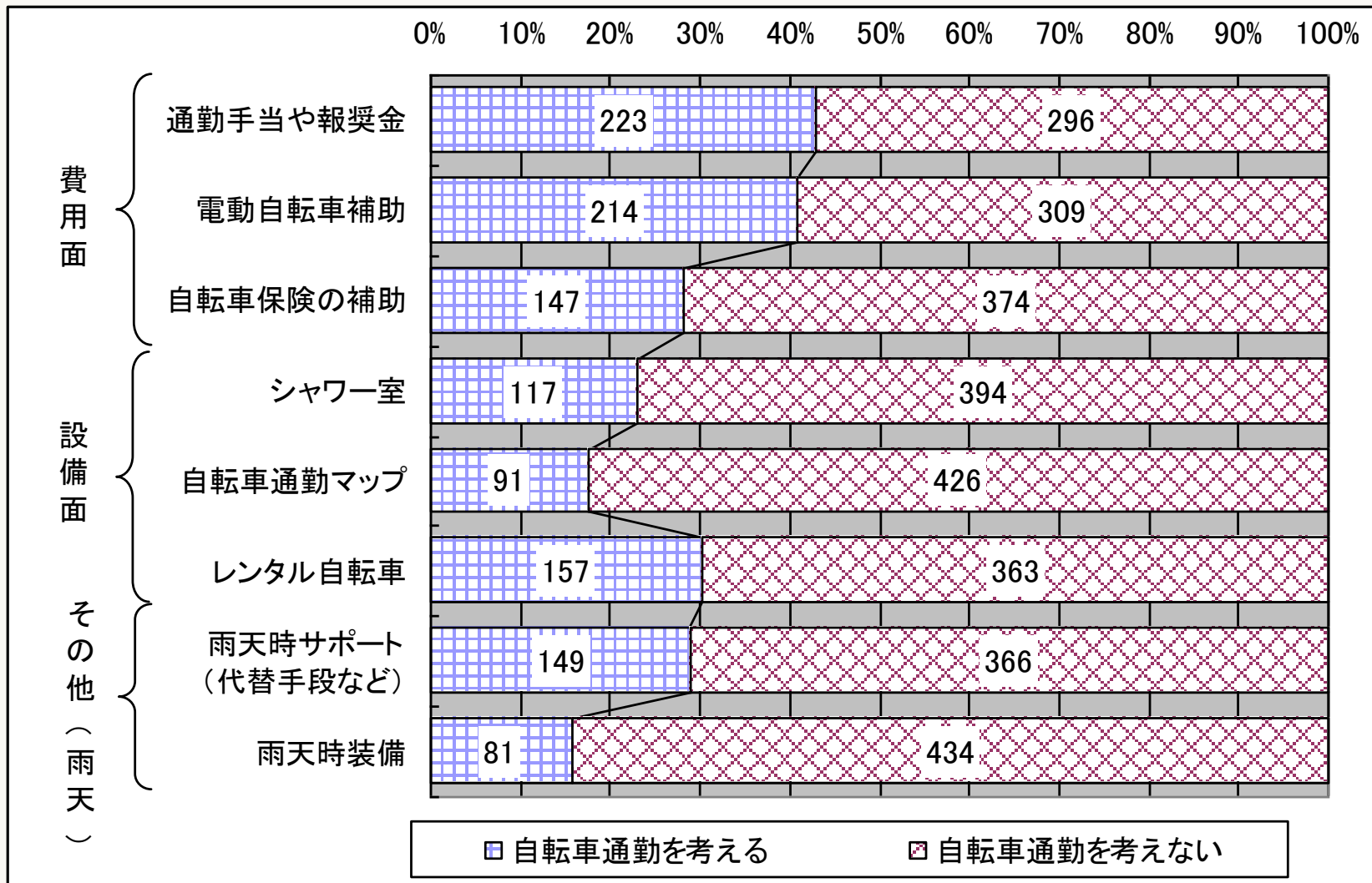
- ・ 従業員:『費用面』 > 『その他(雨天時)』 > 『設備面』
- ・ 事業所:『設備面』 > 『その他(雨天時)』 > 『費用面』

# 従業員調査結果(自転車通勤のしやすさ N=553)

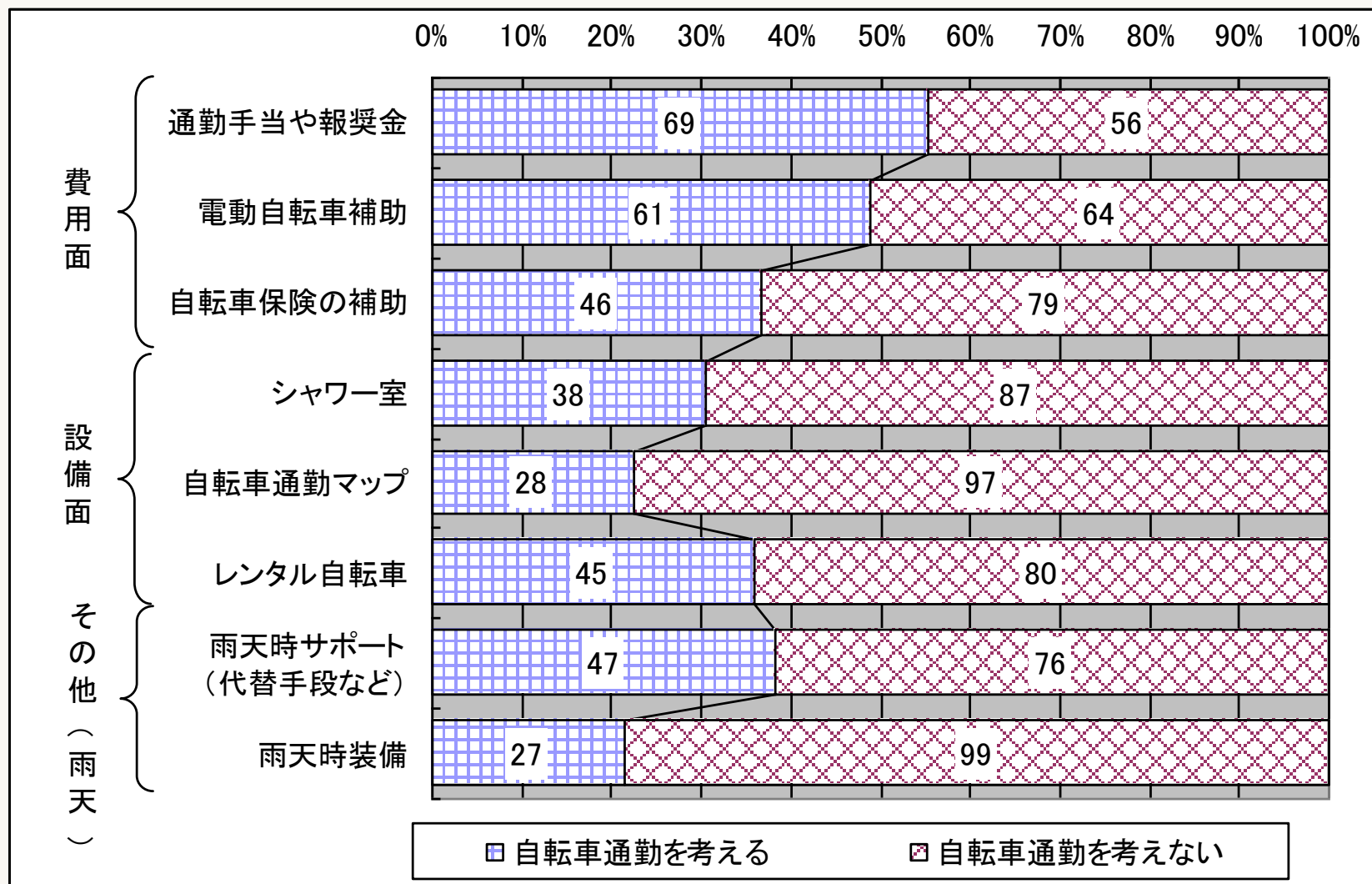




# 従業員調査結果(自転車通勤への意識 N=553)



# 自転車通勤への意識(通勤距離5km未満 N=126)



## 事業所の意識と仮説の確認

- 「自転車通勤手当の新設・拡充」の受容性が一番高い  
(8事業所が実施・検討)

### ＜従業員の転換可能性＞

【仮説】『費用面』 > 『その他(雨天時)』 > 『設備面』  
 【結果】『費用面』 > 『設備面』 > 『その他(雨天時)』

### ＜事業所の受容性＞

【仮説】『設備面』 > 『その他(雨天時)』 > 『費用面』  
 【結果】『費用面』 > 『設備面』 > 『その他(雨天時)』

⇒ 雨天時対応の必要性が低い

⇒ 事業所側も手当てに対して柔軟な意向を示していることから、  
 自転車通勤の促進が図りやすい環境

## 自転車通勤促進策のまとめ(設備面、その他)

分類	促進策	得られた知見
設備面	シャワー室	初期投資が大きく、自転車通勤者のためだけに設置する必要性は低い
	レンタル自転車	公共交通通勤者・自転車非保有者のサポート策として有効
	駐輪場	駐輪場が小さい事業所が存在 転換者を把握して個別に対応
その他 (雨天時)	雨天時装備	個別備品への要望は低い 自転車通勤者への聴取により、自転車通勤の環境改善につなげる
	雨天時サポート	公共交通が不便との意見あり(自由意見) →公共交通の情報提供 相乗りでの対応など、他のエコ通勤施策と関連付けさせて対応することも可能

## 自転車通勤促進策のまとめ(費用面)

- ・「通勤手当での新設・拡充」「報奨金の支給」は転換意欲増大
- ・金銭的要望(保険補助、電動アシスト購入補助)を望む声が多い

→ ある事業所では、自転車通勤一回で50円を支給

→ 6つの事業所では既に自転車通勤者へ通勤手当を支給

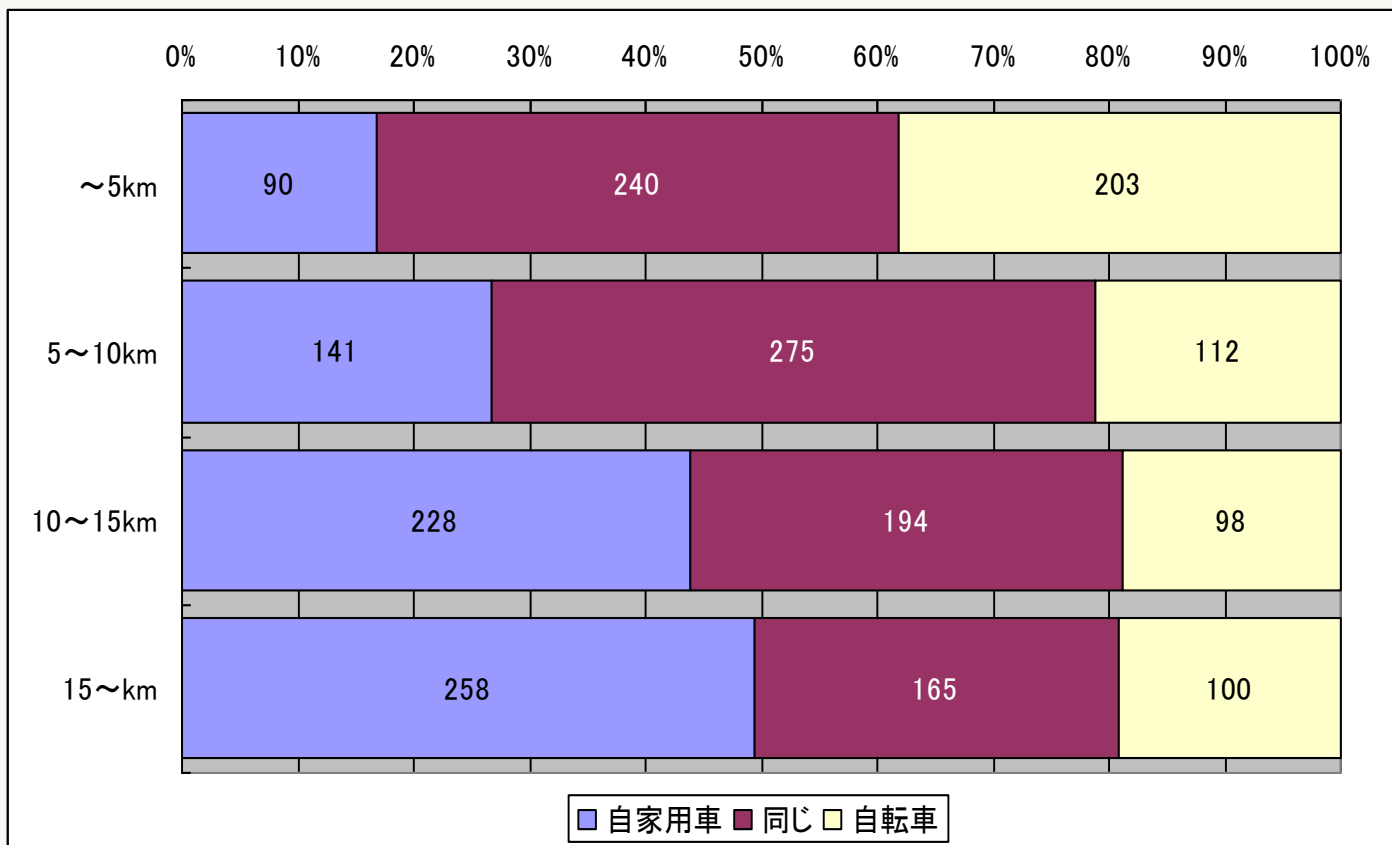
→ これらの事業所に勤めている従業員77%が「自転車通勤者に手当てが支給されない」「分からない」と回答

⇒通勤手当や報奨金を支給しなくても自転車通勤へ転換する可能性

→ 自転車通勤に手当てを支給していない事業所は、資金調達が必要

# 資金確保に向けて

Q:「自家用車」と「自転車」を比較したとき、どちらの交通手段に通勤手当が高く支給されるべきか



従業員の意識として「アメ(自転車優遇)とムチ(自動車非優遇)」を許容できる可能性

## 自転車通勤のあり方(エコ通勤という視点で)

### <事業所に求められること>

- 近距離通勤者のマイカー利用(2km以下で34名)
- 自転車通勤者への手当支給を知らない
- 従業員の「自転車＝手当てが出ない」という固定概念を是正する必要

①「自転車」を交通手段として認識し、適切に管理・サポートを行う必要がある

② 細やかな通勤管理(実態把握、情報提供)

## 現在の取り組み

- レンタル自転車を行っている事業所のサポート
- 通勤手当の改正を含めた自転車通勤促進策を検討している事業所のサポート  
→促進策の受容性や影響を評価(予定)
- 自転車の安全運転に関する研究  
→道路構造、マナーなど

**自転車通勤の促進、安全・快適な環境づくりに向けた研究成果を発信**



## 【謝辞】

アンケート調査にご協力いただいた皆様に  
感謝申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

